

# じゅしゅう

第14号  
(通算354号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

### 今月のクイズ

・浄覚寺のご本堂  
向かって左余間にお掛けしている  
「七高僧」(お釈迦  
さまよりお念仏の  
教えを伝えてくだ  
さった七人の高僧)  
親鸞聖人の師でも  
ある七番目の方は  
どなたでしょうか?

・正解は次号にて。

## 三毒の煩惱

先日、福岡の友人より、左に掲載の「三毒の煩惱」というポスターをいただきました。

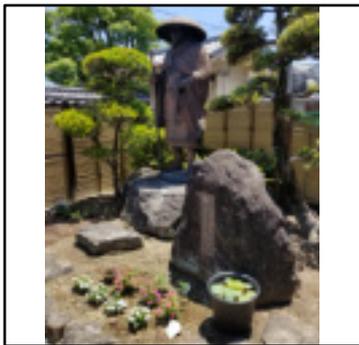
仏教では、私たちの苦悩(逃れられない根本の苦しみ)の原因は煩惱にあると説かれています。煩惱という心を大別すると三つに分けられます。それを貪欲(必要以上に求める心)、瞋恚(怒りの心)、愚痴(真理に対する無知の心)



といい、総称して「三毒の煩惱」と呼ばれています。先般より新型コロナウイルスの影響で、色々な出来事が起こり、報道されております。トイレットペーパーやマスクなどの独り占めや買い占め、高価転売など(貪欲)がありました。それによりがみ合いや自粛警察と表現された他者批判(瞋恚)もありました。それは情報不足や思いやりの欠如という(愚痴)の心ではなかったでしょうか。私たち凡夫は煩惱の心がなくなることはあり得ませんが、コロナウイルスによる逆縁、福岡の友人の心遣いにより、私の姿を気づかせていただきました。掌を合わす生活の中で、手を洗いながら、心も洗わせていただきますように。

## 境内の模様替え

これもコロナウイルスの影響なのでしょう。子供たちは学校や幼稚園が休校のためずっと家におりましたし、住職も法務以外の予定がほとんどなくなり、これはチャンスとばかり、子供たちと一緒に境内地(特に親鸞聖人の銅像の周りに)にお花を植えることにしました。ですが、私は造花も枯らしてしまうほど無知なもので、いろんな方に聞いて



## 蓮の紹介

たり、調べたりしながら、少しずつ増やしております。その中でも、蓮の紹介をしたいと思います。本来、蓮は二〜三月のまだ寒い頃に、新しい芽が出ているレンコンを泥の中(田んぼの土がいいようです)に埋めるのですが、思い立ったのが五月半ば。既に葉っぱが三枚開いていたものを送ってもらいました。「爪紅茶碗蓮」という小型の品種です。夏頃には咲くと思いますので、楽しみにお待ちください。



今は葉っぱが10枚を超えました

役に立たなければ

価値がない

その常識を

ひっくり返す仏法

《直枉会カレンダーより》

先月の答え：聖徳太子。親鸞聖人は和国の教主と仰られました。

# 御文章に聞く(第12回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたく思います。なかなか話が進まず申し訳ありませんが、今月は「ただあきないをもし奉公をもせよ、猟すなごりをもせよ」の部分をお伝えしましょう。

「あきない」とは商売のことですし、「奉公」は主人に仕えることですから、現在ならば会社勤務のことではないでしょうか。「猟・すなごり」は狩猟と

**猟すなごり章(一帖第三通)**

まず、当流の安心のおもむきは、あながちにわがごころのわろきをも。また、妄念妄執のこころのおこるをも。とどめよというにもあらず、ただあきないをもし奉公をもせよ。猟すなごりをもせよ、

ただ、大切なことは、仕事をする意味を考え、人生の中心を何にするかということ。経済的なゆとりを望むことも間違いではないと思いますが、損得を全てにしてしまうと、お金に振り回され、大切なものを見失ってしまふ側面も持ち合わせています。何でも自分の思い通りになることが幸せではなく、本当の豊かさとは何かを考えると、人生の中心は仏法に置くことであると教えられているのだと思います。

漁業を意味しますので、生産業のことかと思えます。この社会で生活をしていくということは、何らかの職業をもって生計を立てています。思い通りの職業に就けている人もいれば、不本意ながらもその仕事を続けている人もいること。生きているということは厳しいことです。

# 仏教語辞典



**油掛地蔵**

京都市右京区油掛町にある石鎌倉中期に造られ、三百年以上油をかけて祈願する習慣が残っている。長年油をかけ続けられたために、顔なつかわからなかつたが、一九六七年に地蔵奉賛会のメンバーによって油落として行われたところ、阿弥陀如来であることが判明した。

『気になる仏教語辞典』  
著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

# 編集後記

今月も「じゅこつ」をお届け致します。「役に立たなければ価値がない、その常識をひっくり返す仏法」という法語の下に、幼稚園児が作った泥団子を親鸞さまの銅像にお供えする挿絵がありました。当山の境内にも親鸞さまの銅像がありますが、隅に咲いている名もなき花をお供えしてくれる子、はたまた落ちていた石を投げつける子、色んな姿が見受けられます。私たちの手も握って使えば暴力を振るう手になります。開いてみれば、頭をなでたり、抱きしめてあげたりすることができる手となります。開いた手を合わせ、お互いに敬う姿が合掌であると思います。(釋法道)

七月十九日(日)に予定していましたが「ごども会夏のつどい」についてご案内をさせていただきました。緊急事態宣言は解除されたものの、新しい生活様式が示される中、ごども会開催の是非を検討してまいりました。この度は、規模を縮小し、できる限り「3密」を避ける中で開催をさせていただきます。詳細は来月号の誌面でお知らせをしますが、開催時間は午後一時開会、午後四時解散とします。マスクの着用や消毒・換気はもちろんのこと、身体的距離の確保のため、参加者は二十五名まで(先着順)、また保護者の方にはテントを張った境内からの観覧をお願いしたく思っております。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

# 行事案内